



「ほっとルーム」だより

第175号 令和5年3月1日発行
いちき串木野市家庭教育支援連絡協議会
(子どもみらい課内 TEL 33-5618)

子どもに与えるもの、与えないもの

— ゲーム機を例に考える —

子どもに与えてはいけないものはめったにありません。好ましくないものを求めているように思えたら、本来与えられるべきものが不足しているはずで

ゲーム機を与えるべきか



子どもには、いくら与えても与えすぎということがないのが「愛情」です。親の愛情が十分に子どもの心に届いてさえいれば、あとは何をどのように与えても、過不足などありません。

全国各地の勉強会や講演会に招かれて、よく質問されるのが「ゲーム機」に関することです。学校から帰って、自宅にいる間の多くの時間を、ゲームにはまったように熱中している子どもの話をよく聞きます。

「それでは困るので、ゲーム機は買い与えない方がよいと思いますが、激しく要求するので、与えないわけにはいかず困っています」といった内容の質問がたいへん多いのです。

これは、一見難しい質問のようなのですが、親の愛情が十分に伝わっていれば、与えるか、与えないか、どちらの選択をしても大過ないのです。ゲーム機を楽しむのを、ほどほどにしておきなさいという親の気持ちを受けられるかどうかは、それまでの親子関係が大きく影響します。

「もの」だけでは満たされない心

子どもがゲーム機を強く求めたら、私は買い与えてやるのがいいと思います。しかし、ゲームばかりに没頭してしまうとしたら、その原因に思いを向けてやってほしいと思います。子どもがゲーム機のような「もの」で要求するときは、心の要求が満たされていないのかもしれませんが、たとえ「もの」を買い与えることがあっても、できるだけ限度をわきまえて、そして、「もの」で子どもの要求を満たすことはできるだけ減らそうという気持ちも大切だと思います。

「ゲームばかりしていないで、もっとほかのことをするように」という話をする前に、家族間の自然な会話を増やしていくように心がけることが大切です。夕食のときなどは最適な時間です。また、そういう会話を心がけることで、話の延長として、「ゲームはもっと控えるように」といった親の要求が伝えやすくなるのです。



何を与えてもよい

今日、携帯電話をはじめ、大人が陥っているじつに多様な対象への依存症を考えてみてください。アルコール、薬物、買い物、性、賭博など。そして生き方の孤立性。そういう大人たちは、それまでの半生で求めても与えられてこなかったものを、深く大きな心の渇きとして抱いているのです。

ですから、子どもが求める「もの」や「こと」で、与えてはいけないものはめったにありません。子どもの心身が要求していることは、究極のところ必要なことなのです。親から見て好ましくない「もの」や「こと」を求めているように思えたら、日々の会話や手作りの食事など、本来与えられるべきものが不足しているはずだと考えて、対処してあげてください。そのうえで、ゲーム機などを与えて問題が生じたら、会話のなかで要求を伝えていけばいいのです。

参考文献 佐々木 正美著「はじまりは愛着から 人を信じ、自分を信じる子どもに」

～ほっとルーム～
(子どもみらい課内)

子育ての中で、気になること等ありましたら、一人で悩まず、いつでも気軽にご相談ください。一緒に語りましょう。

TEL : 33-5654

FAX : 32-3124

令和4年度 長子家庭訪問が終わりました

今年度も学期ごとに、1年生長子家庭の訪問をさせていただきました。一年を通して、子どもさんの成長や保護者の皆様の頑張りを聴かせていただきながら、我々支援員も子どもさんの成長を嬉しく思ったところです。突然の訪問にも関わらず、快くお話を聴かせてくださり、ありがとうございました。

家庭教育支援事業の説明を行いました

「ほっとルーム」では、来年度小学校に入学する子どもさんを持つ保護者の皆様に、家庭教育支援事業の説明と支援員の紹介をしました。

羽島小学校で「ほっとルーム」の出前サロン「おあしす」を開設しました

2月7日（火）、羽島小学校の家庭教育学級「菜の花学級」の閉講式後、「ほっとルーム」の出前サロン「おあしす」を開設しました。今回は、8人の保護者の皆さんが参加されました。子どもさんの学校生活や家での過ごし方、メディアとのつき合い方などについて、語り合い、笑い声の絶えない「おあしす」でした。これからも皆様の子育てを応援しています。ありがとうございました。

今年度最後の開催となりました。来年度以降も「おあしす」が、支援員にお話を聴かせていただける場としてだけでなく、保護者の皆さんの情報交換の場としても、より多くの方に知っていただき、ご利用していただけることを願っております。



思春期の子どもにとって「親友」は
自分を発見する鏡です。

子育て
アドバイス

「親友」との語り合いから得た
さまざまな知識と想像力で、

子どもは親に屁理屈を返すようになり、
そして「親」から自立していくのです。



子どもの反抗は自立のための一つの儀式ですから、

子どもの成長を信じてその屁理屈にも
耳を傾けてほしいのです。



子どもは信頼してくれる親を裏切りません。

これもまた子どもたちに教えてもらった大切なことです。

広木 克行著 「親と子の絆を深め合う道程」より



県の相談機関

かごしま教育ホットライン24 ☎0120-783-574

☎099-294-2200※携帯電話からはこちら

24時間子どもSOSダイヤル ☎0120-0-78310

PTAすくすくライン(家庭教育やしつけについて) ☎099-251-0309